



肝属地区清掃センター  
つるた たくや  
鶴田 拓也 主任専事

**ごみを増やさない工夫をしましょう**

ごみの成分はその大半が水です。特に水を多く含む生ごみは燃えにくく、燃やすための燃料にコストがかかるという問題があります。また、本来は資源になる紙類のごみも分別されておらず、資源化すればもつとごみは減らすことができます。

肝属地区清掃センターは、「サーマルリサイクル」という焼却処分した際の熱を他の施設で利用する仕組みを取り入れ、環境に配慮した施設ですが、ごみを出さない工夫をすることが一番のエコだと思います。まずは分別して資源になるものは資源化しましょう。次に3キリ運動（食ベキリ・使いキリ・水キリ）で出るごみを少なくしましょう。最後に今あるものを大切に使うことです。日頃の生活から見直して、みんなでごみの削減に努めましょう。

生ごみ減量のキーワードは

# 3キリ



**水キリ**  
にチャレンジ!

生ごみ減量の3要素の中でも特に重要な「水キリ」について親子でチャレンジしてみました!!



水切りネットに入れた生ごみを、専用の水切り器に入れて両手で2~3回強く絞ります。

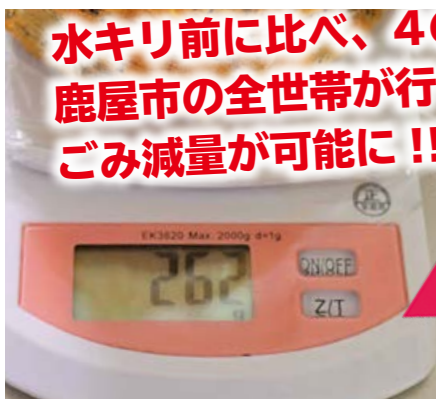


絞るだけでも水キリ効果はありますが、円錐型の水切り器と併用し、一定時間置くことでさらに水キリできます。

水キリ後

水キリ前

**水キリ前に比べ、46g 減!!**  
**鹿屋市の全世帯が行うと、約2tの**  
**ごみ減量が可能に!!**



今回水キリにチャレンジした  
下里 未来さん・郁弥くん 親子  
(西原3丁目)

## 予想以上に水キリできて驚きました

夏休みの自由研究も兼ねて親子で楽しく取り組みました。普段はもともと流しの排水口にネットを付けて水キリしていましたが、今回のチャレンジでこんなに水キリできることに驚きました。今後は生ごみを肥料にした家庭菜園にもチャレンジしてみたいです。



# 日々の努力でごみを減らす

ごみを減らすには、日頃からの取り組みが大切です。ここでは、各地域でごみを減らすために活動する団体や事業所などが取り組んでいる具体的な方法を紹介します。

継続した立ち会いで  
きれいなごみステーションを保つ

**地** 元のごみステーションが昔ほどでもないという事で、周辺の環境にも良くないという事で、地域のひと協力してごみステーションの立ち会いボランティア活動を始めた頃は80人ほどいたメンバーも、現在は高齢化などで半分ほどに減りましたが、現在も火・水・木・金曜日の週4回の立ち会いを継続しています。

具体的な活動は、早朝6時くらいから8時くらいまでの間に、正しくごみが捨てられているかの確認や立哨による地域の方への声掛けです。以前は、決められた日以外にごみを持ち込んだ方へ指摘をすると怒鳴られることもありましたが、辛抱強く活動を続けることで、ごみ出しのマナーを地域の方も守ってくれるようになり、少しずつごみステーションがきれいになっていくように感じます。

また活動を続けるうちに町内会から協力をお願い、ごみステーションに屋根を付けてもらったり、故障箇所の修繕などをお手伝いしてもらえるようになりました。



①ごみステーション周辺に地域の人の協力で植えられた花が、通る人を和ませる。②見守り活動でごみの種類についても分別が正しいか手作業で確認をする。

なったのは大変うれしく思っています。

現在、笠之原地域の人口が増えて、ごみステーションで初めて見かける人も増えてきました。その際に、ごみ捨てのことでだけではない声を掛けるようにしています。これからも、地域がきれいであり続けるよう活動を頑張りたいと思います。

### INTERVIEW



笠之原町内会「考える人の会」  
わかまつ かずこ  
若松 和子 会長